

厚生年金基金資産運用業務報告書
(平成26年度)

厚生労働省年金局企業年金国民年金基金課
平成28年5月

厚生年金基金資産運用業務報告書について

【概要】

厚生年金基金は、毎事業年度、年金給付等積立金の管理運用業務についての報告書を作成し、翌事業年度9月末日までに、厚生労働大臣に提出しなければならないとされている。（厚生年金基金規則※（昭和41年厚生省令第34号）第56条第2項）

※公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備等及び経過措置に関する省令（平成26年厚生労働省令第20号）第17条第1項の規定によりなおその効力を有するものとされた同令第1条の規定による廃止前の厚生年金基金規則（昭和41年厚生省令第34号）

【対象基金数】

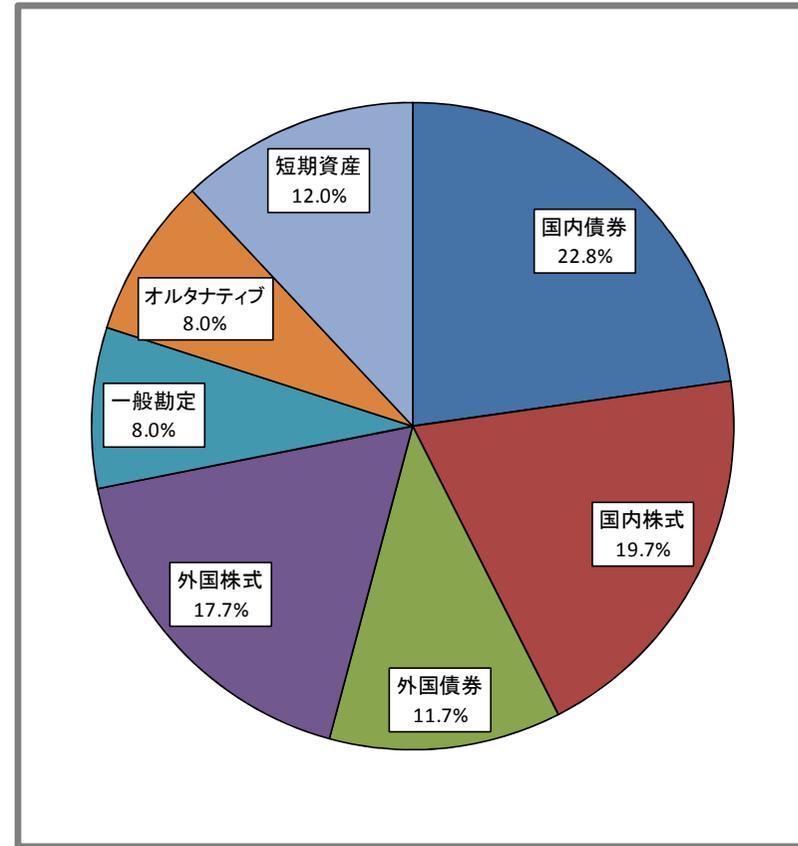
444基金（平成27年3月末現在）

厚生年金基金の運用資産別残高及び資産構成割合（平成27年3月末）

平成27年3月末における厚生年金基金の運用資産残高総額は、17兆8,119億円（昨年度末と比べ約1.2兆円の減）となりました。

また、資産構成割合は、国内債券22.8%、国内株式19.7%、外国債券11.7%、外国株式17.7%、一般勘定8.0%、オルタナティブ8.0%、短期資産12.0%となっています。

	時価総額(億円)	資産構成割合(%)
国内債券	40,562	22.8
国内株式	35,147	19.7
外国債券	20,784	11.7
外国株式	31,572	17.7
一般勘定	14,308	8.0
オルタナティブ	14,312	8.0
短期資産	21,435	12.0
合計	178,119	100.0

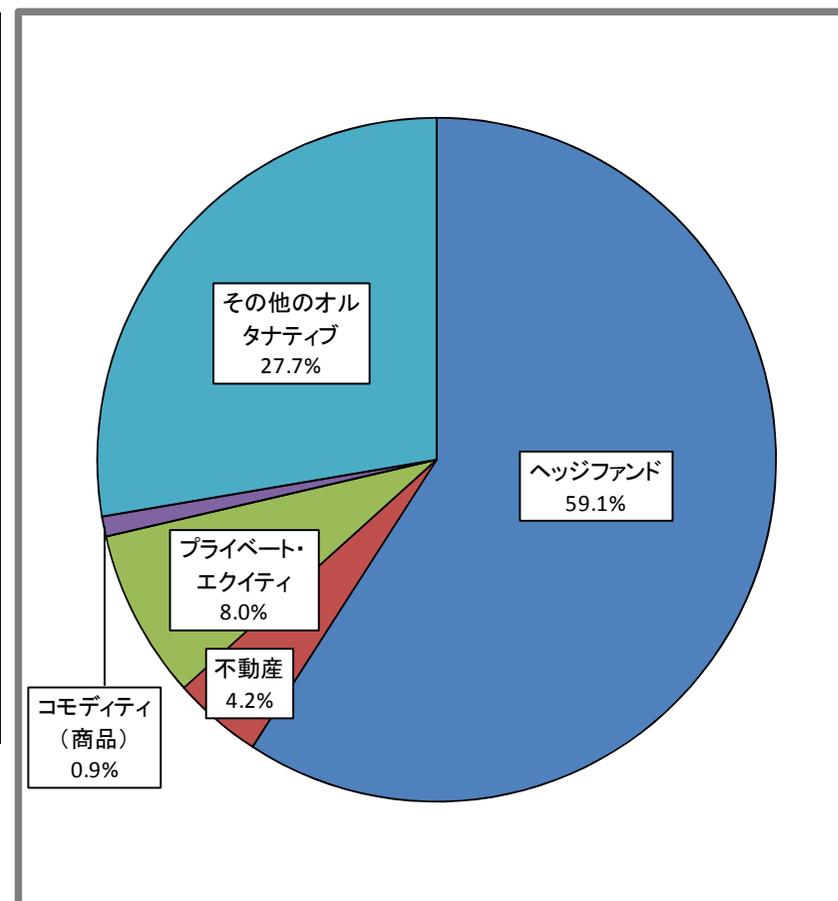


※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

厚生年金基金のオルタナティブ投資の割合(平成27年3月末)

平成27年3月末における厚生年金基金のオルタナティブ投資の資産残高は、約1.4兆円となりました。そのうちの約60%がヘッジファンドへの投資となっています。

	時価総額(億円)	構成割合(%)
ヘッジファンド	8,462	59.1
不動産	608	4.2
プライベート・エクイティ	1,148	8.0
コモディティ(商品)	135	0.9
その他のオルタナティブ	3,959	27.7
計	14,312	100.0



(注)その他のオルタナティブとは、ハイイールド債、CLO、CDO、インフラストラクチャー、保険リンク証券、マネージドフューチャーズ、その他が含まれる。

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

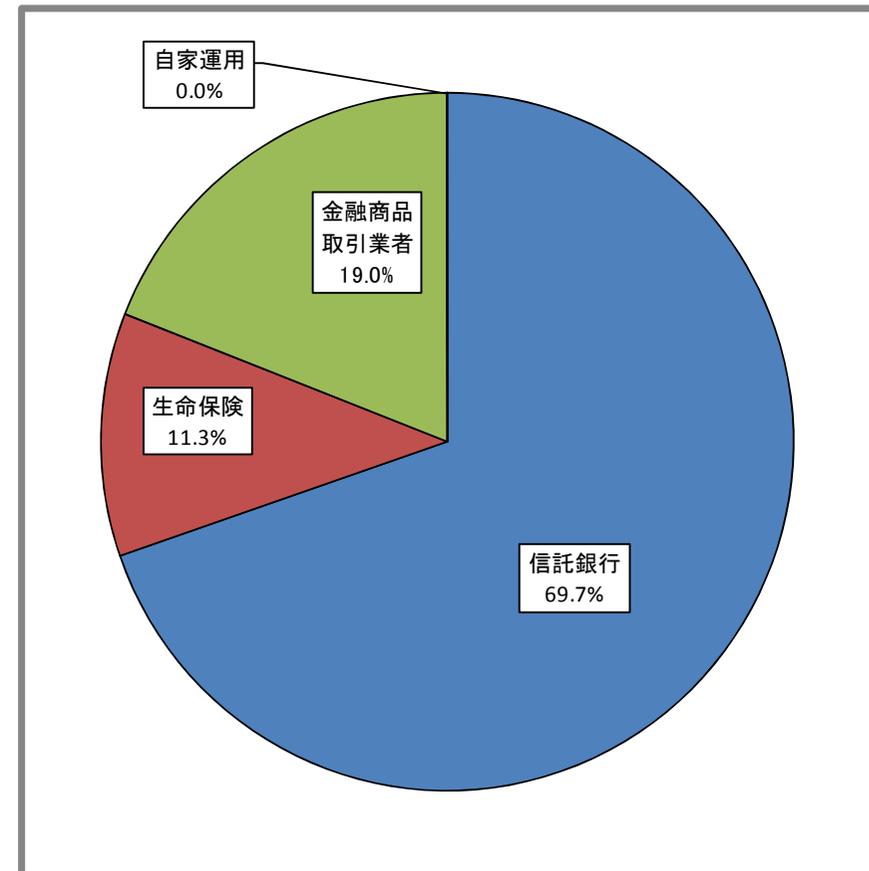
厚生年金基金の運用機関別資産残高及び構成割合(平成27年3月末)

平成27年3月末における厚生年金基金の運用機関別資産残高は、信託銀行が約12.4兆円、生命保険が約2.0兆円、金融商品取引業者が約3.4兆円となりました。

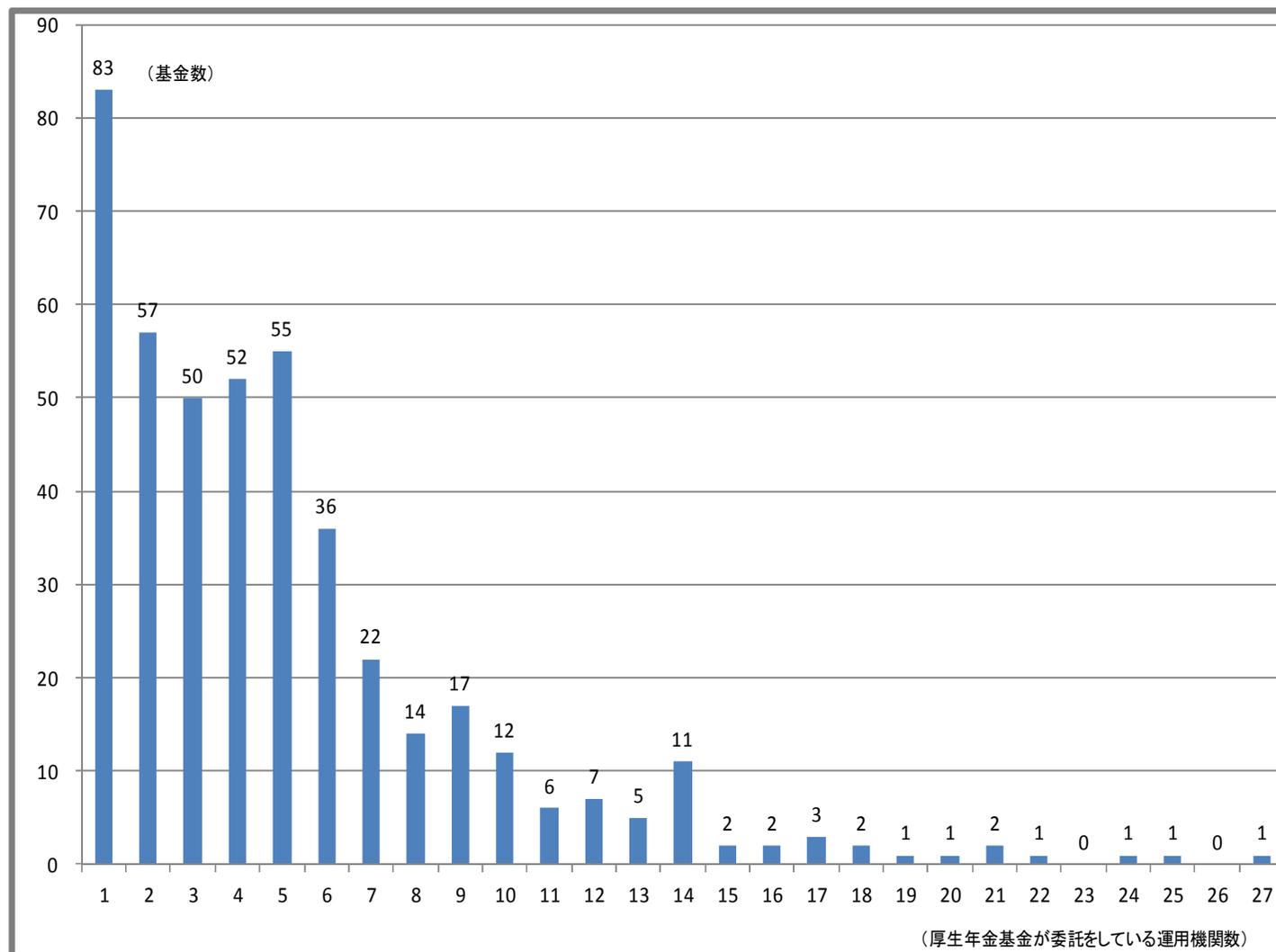
	時価総額(億円)	構成割合(%)
信託銀行	124,139	69.7
生命保険	20,063	11.3
(注)金融商品取引業者	33,890	19.0
自家運用	28	0.0
合計	178,119	100.0

(注)投資運用業の登録を受けた投資一任業者である

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。



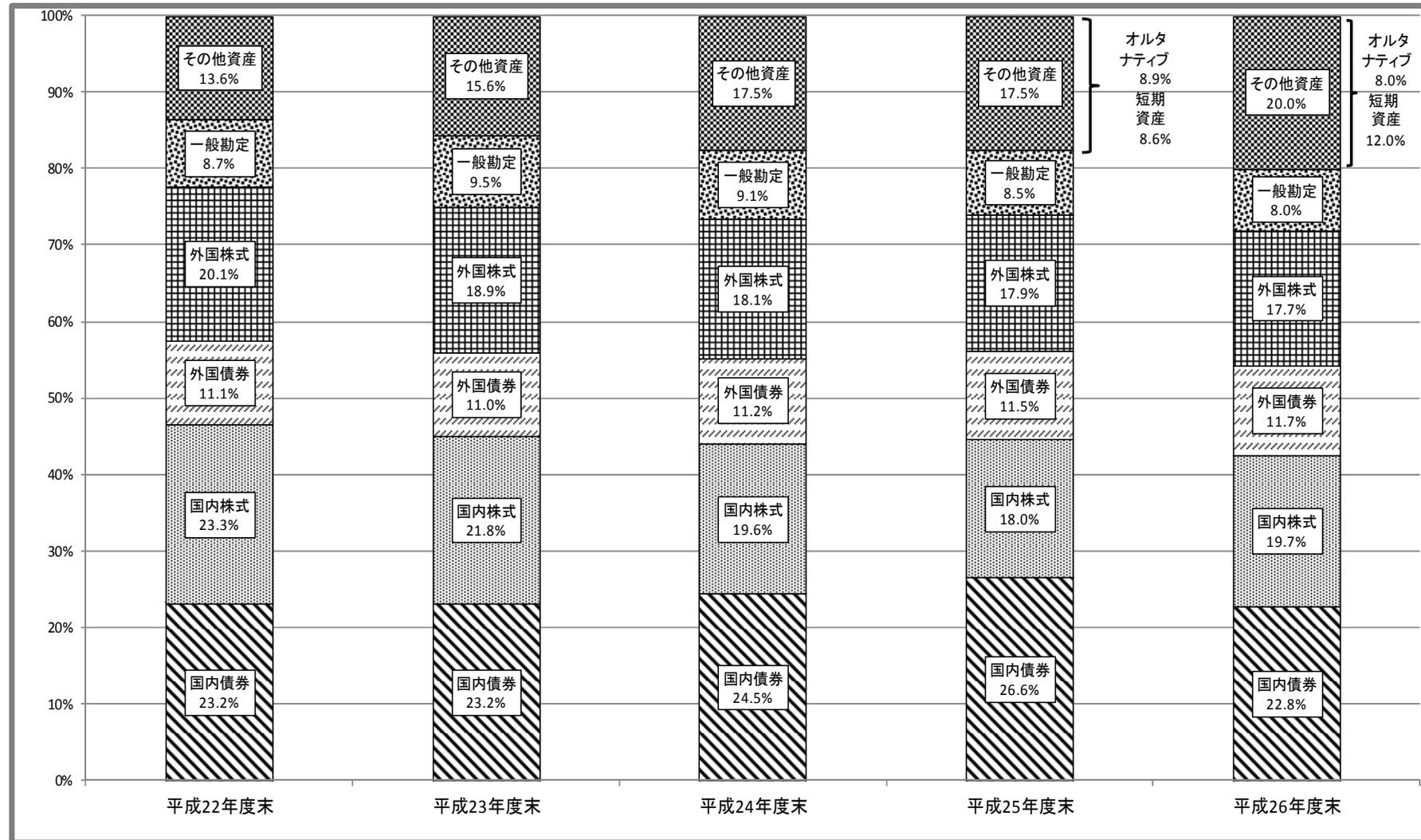
各厚生年金基金が委託している運用機関数(平成27年3月末)



運用機関数	基金数	割合
1社	83	18.7%
2社	57	12.8%
3社	50	11.3%
4社	52	11.7%
5社	55	12.4%
6社	36	8.1%
7社	22	5.0%
8社	14	3.2%
9社	17	3.8%
10社	12	2.7%
11社	6	1.4%
12社	7	1.6%
13社	5	1.1%
14社	11	2.5%
15社	2	0.5%
16社	2	0.5%
17社	3	0.7%
18社	2	0.5%
19社	1	0.2%
20社	1	0.2%
21社	2	0.5%
22社	1	0.2%
23社	0	0.0%
24社	1	0.2%
25社	1	0.2%
26社	0	0.0%
27社	1	0.2%
合計	444基金	100.0%

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

厚生年金基金の資産構成割合の推移(過去5年間)



(注) その他資産には、ヘッジファンド等のオルタナティブ投資が含まれる。

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

厚生年金基金の運用資産残高及び資産構成割合の推移(過去5年間)

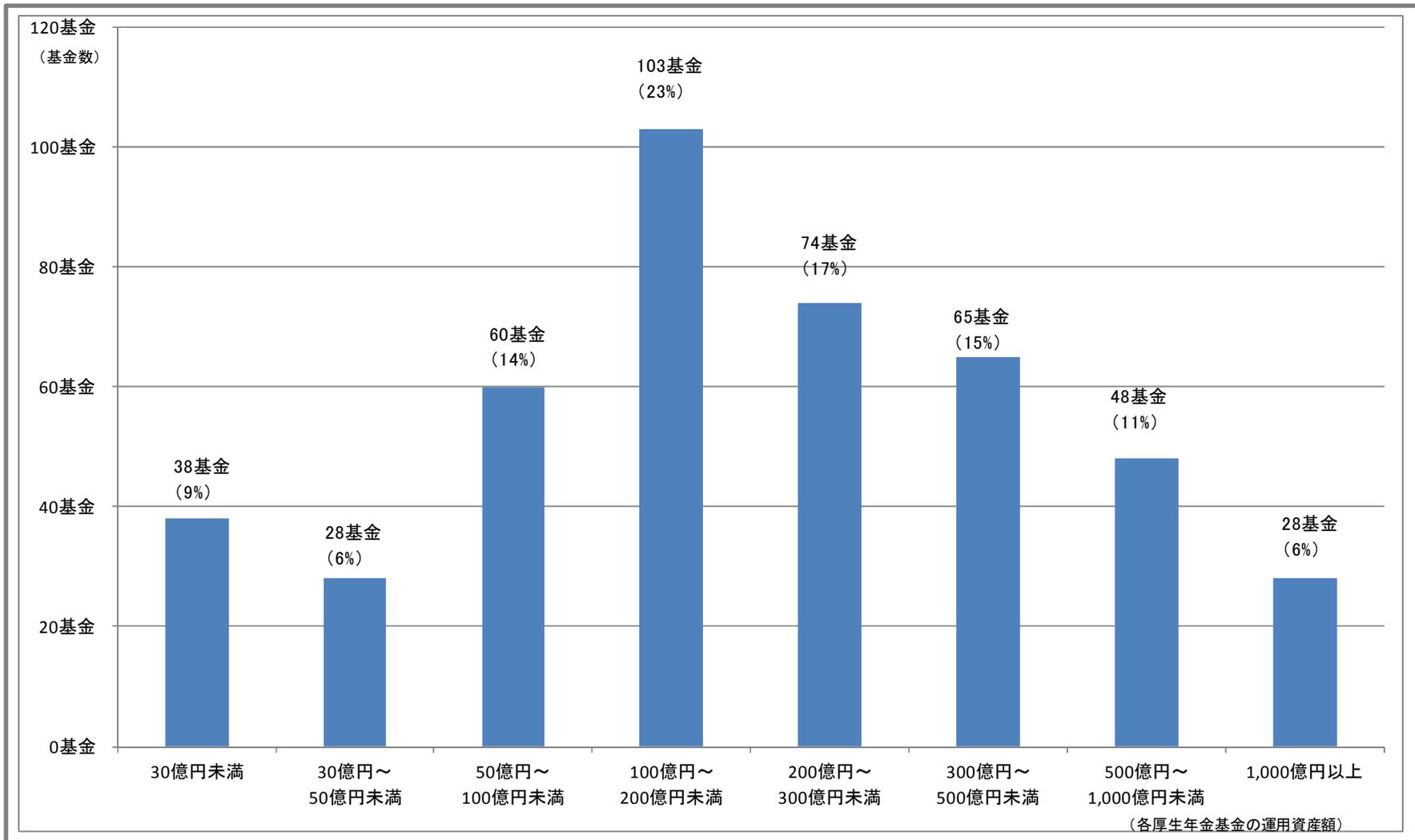
(単位: 億円、%)

	平成22年度末			平成23年度末			平成24年度末			平成25年度末			平成26年度末		
	時価総額	資産構成割合	基金数	時価総額	資産構成割合	基金数									
国内債券	41,247	23.2%	579	39,574	23.2%	559	44,228	24.5%	537	50,754	26.6%	494	40,562	22.8%	377
新株予約権付社債	6	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0
国内株式	41,452	23.3%	591	37,298	21.8%	567	35,498	19.6%	538	34,444	18.0%	503	35,147	19.7%	383
外国債券	19,713	11.1%	584	18,765	11.0%	559	20,233	11.2%	530	21,989	11.5%	499	20,784	11.7%	376
外国株式	35,682	20.1%	589	32,268	18.9%	566	32,739	18.1%	535	34,120	17.9%	500	31,572	17.7%	384
一般勘定	15,561	8.7%	415	16,242	9.5%	396	16,533	9.1%	389	16,182	8.5%	323	14,308	8.0%	257
(注) その他資産	24,181	13.6%	594	26,563	15.6%	577	31,605	17.5%	558	オルタナティブ	8.9%	327	オルタナティブ	8.0%	226
										17,083	14,312	短期資産	12.0%	428	
										16,343	8.6%	523	21,435		
資産合計	177,842	100.0%	595	170,710	100.0%	577	180,838	100.0%	560	190,916	100.0%	531	178,119	100.0%	444

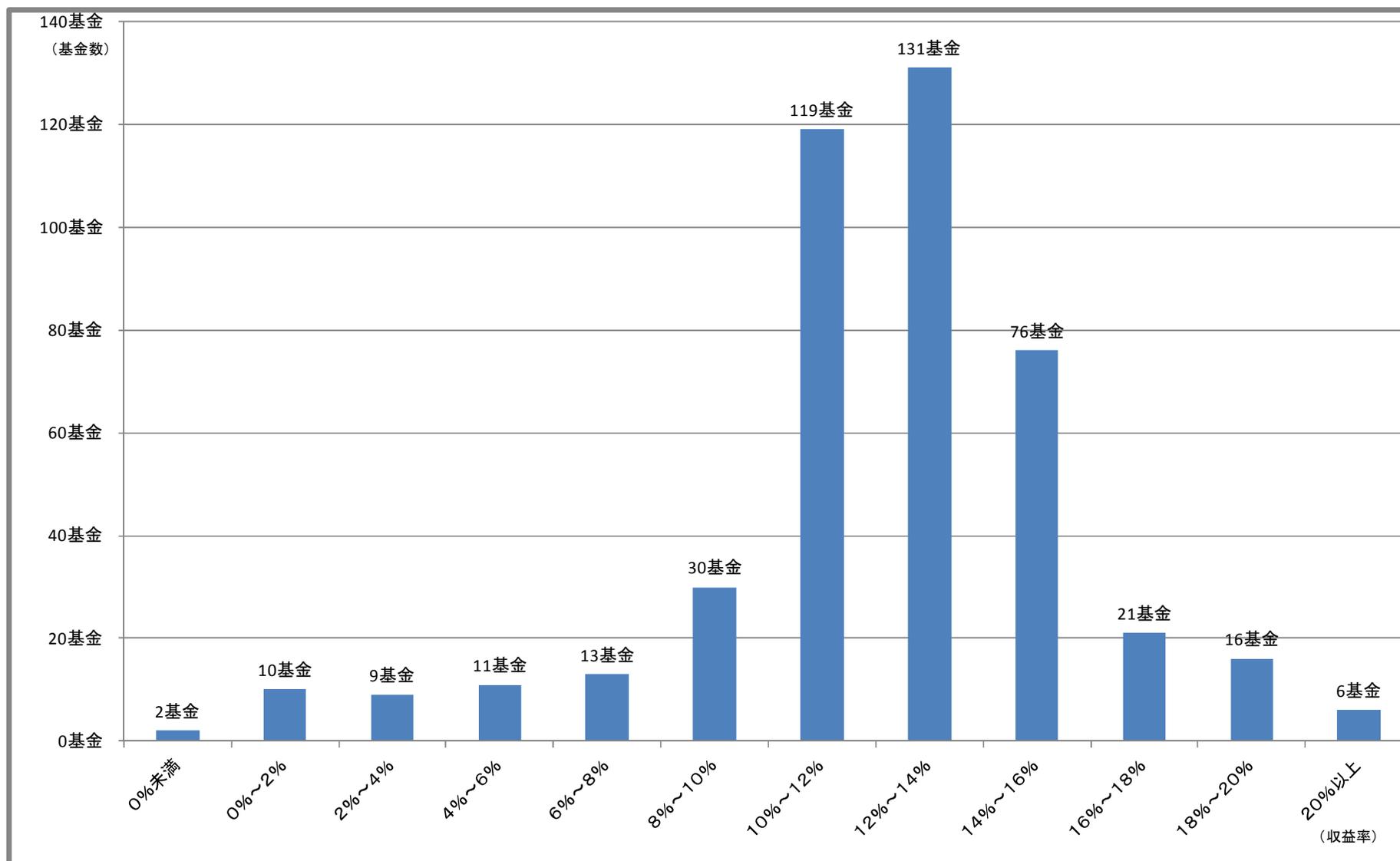
(注) その他資産には、ヘッジファンド等のオルタナティブ投資が含まれる。

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

運用資産額規模別の厚生年金基金の分布(平成27年3月末)



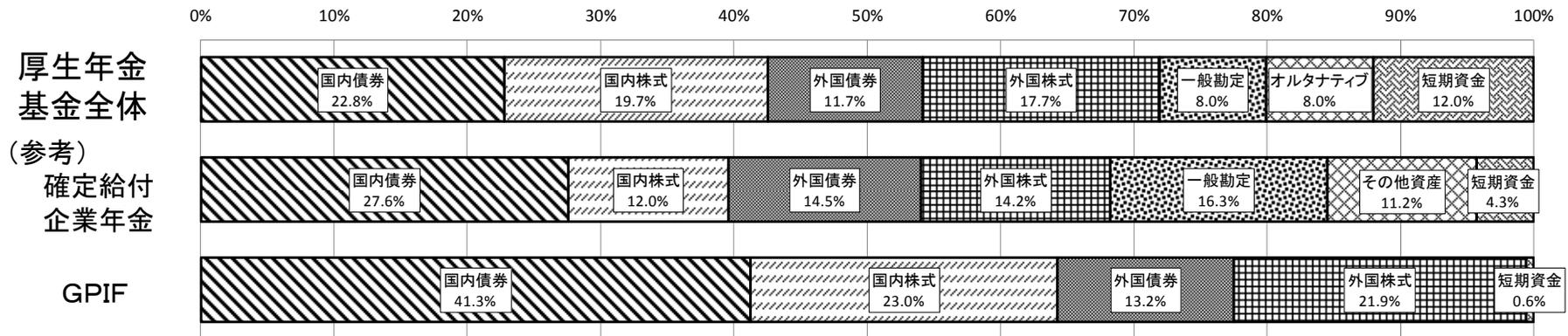
各厚生年金基金の収益率(総合修正利回り/時間加重収益率)の分布(平成27年3月末)



(参考) 厚生年金基金の資産運用について

厚生年金基金の資産運用は、加入員等の受給権を保護し、また、基金が公的年金の一部を代行していることを踏まえ、リスク管理に重点を置きつつ、安全かつ効率的に行っていくことが必要であり、基本的に「外部積立」による「分散投資」と「長期的な基本ポートフォリオ(政策的資産構成割合)の策定・管理」に基づいた運用が求められている。

1. 厚生年金基金等の資産構成割合



(注) 厚生年金基金全体は「厚生年金基金資産運用業務報告書(平成26年度)」、確定給付企業年金は「企業年金に関する基礎資料 平成27年12月(企業年金連合会)」、GPIFは「平成26年度業務概況書(年金積立金管理運用独立行政法人)」の数値によるもの。

(注) 確定給付企業年金の「その他資産」は、不動産・プライベートエクイティ等である。

2. 厚生年金基金等の運用利回り

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	5年平均 (H22'~H26')
厚生年金基金全体	-1.00%	1.33%	12.21%	10.43%	12.76%	6.99%
(参考) 確定給付企業年金	-0.17%	2.18%	10.45%	7.75%	10.08%	5.97%
(参考) GPIF	-0.25%	2.32%	10.23%	8.64%	12.27%	6.53%

(注) 厚生年金基金全体、確定給付企業年金は「企業年金に関する基礎資料 平成27年12月(企業年金連合会)」、GPIFは「平成26年度業務概況書(年金積立金管理運用独立行政法人)」の数値によるもの。

(注) 各年度末による修正総合利回りである。